

## 第5回 一宮の魅力ある海岸づくり会議（結果概要）

日 時 平成23年9月3日（土）

午後2時30分～4時30分

場 所 一宮町保健センター3階多目的室

配付資料 次第、資料1～3、釣区長からの質問書

### 1. 開会

### 2. 挨拶

（玉川町長）

- ・ 東日本大震災の被害について一宮町でも2.7mの津波が来襲し、30戸が床上浸水した。
- ・ 一宮海岸の利用について、海岸利用検討委員会でルールブックを作成した。

### 3. 委員紹介

- ・ 区長さんの交代や千葉県及び一宮町で人事異動があったことから委員紹介を行った。

### 3. 大橋委員（釣区長）からの質問に関する回答

（事務局）

- ・ 1の回答：第5回会議の開催が9月になったのは、津波の被害の実態や環境を調査し把握した上で、会議に臨みたかったため。
- ・ 2 - （1）の回答：太東崎と屏風ヶ浦の供給土砂が崖侵食工事によって減少した点、漁港建設に伴う沿岸漂砂が阻止された点、天然ガス採取によって一宮川河口においては50～60cm程度地盤沈下している点、などの理由で海岸が侵食した。南は一宮海岸、北は野手海岸付近で最大100m程度汀線が後退した。
- ・ 2 - （2）の回答：侵食対策として昭和58年から離岸堤を建設し、その後昭和63年からヘッドランド建設を進めてきた。昨年度までにトータルで約67億円を投じた。事業進捗率は6割弱となっている。
- ・ 2 - （3）の回答：県としては、ヘッドランド対策で侵食の進行を防ぎたいと考えている。また、侵食のペースを落ととしても、砂浜は回復しないので、ヘッドランド対策に加え、海浜利用の高い2-3号ヘッドランド間、7-8号ヘッドランド間において、20, 30万m<sup>3</sup>の土砂を養浜して、40mの砂浜を、

砂浜を回復させていきたいと考えている。

- ・ 3の回答：現在、津波対策について検討している最中だが、侵食対策は津波対策にも寄与するものだと考えているため、継続して侵食対策を進めていきたい。津波対策についても近藤先生や宇多先生らに技術的なアドバイスをもらいながら早々に取りまとめていきたいと考えている。
- ・ 4の回答：9-10号ヘッドランドは堆積傾向であるため、当面はモニタリングして観察していきたい。せっかくのご提案だが、工事は当面しない方向で考えている。

#### 4. 議事

##### ○報告事項

事務局から以下の2点について説明

- ・ 東北地方太平洋沖地震について
- ・ 第4回開催結果概要

##### 【意見・質問】

(大橋委員)

- ・ なぜ飯岡地区で津波被害が大きかったのか。

(事務局)

- ・ 飯岡海岸に波が回り込んで集まったため、津波高が周りと比べて高かった。また、海岸のすぐ後ろが市街地で緩衝帯がなかったことが挙げられる。

(宇多副会長)

- ・ 今回の津波では、飯岡のほかにも大洗、日立港、大津漁港など、太平洋をみて左に湾を抱えるところで被害が大きかった。湾の北側で津波高が高くなる現象について、明確な原因は未だわかっていないが、これから解明していく必要がある。

(松井委員)

- ・ 震災の2週間前、飯岡上空を飛行機から見たが、飯岡漁港の北側に大量の砂が堆積しているのが見えた。被害が大きかったのは、そのせいではないかと思っている。

(宇多副会長)

- ・ 漁港北側に堆積している砂は、粒の細かい砂である。今回の津波では、岩手県から南の方まで、細かい砂は津波の作用ですべて持ち去られてしまった。したがって、飯岡の津波高が大きかったことに直接的な関係は多分ないと思う。

(芝本委員)

- ・ 福島大学奥本准教授の講演で、「福島県の中で被害が大きかったのは、人工物が多い部分だった。また、消波ブロックが動いたことで被害を受けたという場所もあった。何もなかったところは津波の被害は大きかったが復興する際に邪魔なものがなく、作業はしやすかった。」という話があった。
- ・ 砂浜を守るためにつくったものだったり、波を少し消すためにつくったものが、津波にとっては二次災害という形になったのではないかという意見が結構多かったので、今回のヘッドランドの6号に関して検討する際は、危険性を少しでも減らすようなことを議題に入れていただきたい。

(宇多副会長)

- ・ 芝本さんの御意見で、海岸線に何かコンクリートのどでかいものがある、それが壊れるとそれが障害物になってえらいことを起こすというのは間違いない。ただ、構造物が多いところというのはどういうところかという、仙台湾南部のようにもう侵食されてすごくて、実は砂浜が全然ないところいっぱいある。コンクリートの堤防と、浜は何もなくて、消波ブロックのところでは完璧にやられている。だから、今までやられていたから置いたのだけれども、そういうところはまた今度も津波が来てみたらやはり完璧にやられてしまったという話なので、さっき県が言っていたように、砂浜があって護岸を守っているところというのは水がヒューッと越えただけで、悪さは余りない。構造物があったからいけないというよりも、侵食されて深くなってしまっていて、津波のエネルギーが全然消えないで突っ込んできたところはやはり被害も大きかったというふうな理解のほうがいいと思う。

(大橋委員)

- ・ 今回、湾の地形をした場所において津波被害が大きかった。飯岡地域の被害が大きかったのも、湾の地形だからではないか。飯岡漁港の存在で、飯岡地域は湾地形であるように見える。今回の被害は人災になってしまうのではないか。ヘッドランドも考えようによっては湾になるので、危惧している。

(宇多副会長)

- ・ 飯岡の防波堤は大きいように見えるけれどもすべて完全に水が防波堤を越えるような感じなので、宮古の方と条件が違う。ヘッドランドというのは宮城県に至るまでたくさんあるが、どこも全く関係なかった。後ろの海岸はもうめっちゃめっちゃで4kmまで津波が突っ込んでいのに、海の中にヘッドランドが孤立して残っているところばかりである。だから、そういう

点からすると、ヘッドランドがあるがゆえに何か悪さをするというのは余りないかなど、経験的に感じる。

## ○議題

事務局から以下の点について説明

- ・ 6号ヘッドランドについて
- ・ 6号ヘッドランド横堤の長さについて
- ・ 海浜変形のシミュレーション

### 【意見・質問】

(大橋委員)

- ・ 防護面での最小浜幅 15.7m というのは、現状よりも侵食するということか。

(事務局)

- ・ 50年後に浜幅 15.7m に落ち着くという意味である。現状からの後退量は 10m 弱ぐらいと思われる。

(大橋委員)

- ・ シミュレーションではどのような情報をもとに地形の入力データを作成しているのか？机上で地形を作っているのではないか？

(宇多副会長)

- ・ 1980年から現在に至るまでの汀線形状等を全部調べて検証している。

(近藤委員)

- ・ 私は毎年測量しているのを見ているので、大丈夫。

(大橋委員)

- ・ 50年後にならないと結果が出ないのでは困る。

(宇多副会長)

- ・ これは、あくまでも長期的な予測結果である。要望があれば、5、20年後の予測結果を示すこともできる。

(大橋委員)

- ・ 吉田さんのやっているロープは効果的だと思うが、今日見た方法は効果が現れないように感じる。今回、私が提案した方法はお金もかからないし効果的だと思うので、是非実施して欲しい。

(宇多副会長)

- ・ 前回の議論にもなったが、吉田さんのロープのやっている場所は、太東漁港の南防波堤の影響で砂が溜まる傾向にある箇所である。砂が堆積したのは、ロープによる効果が全てではない。だから他の地域にこのロープを持って行ってうまくいくかという、私はなかなかうまくいかないのではな

いかというふうに思う。

(大橋委員)

- ・ では、ロープを取ってしまった場合に、砂浜が侵食したらロープの効果が認められるということになるのか。

(宇多副会長)

- ・ ロープを撤去しても、局所的に堆積した砂が流れてなだらかな海岸線に代わるだけで、大きく侵食はしないだろう。

(大橋委員)

- ・ そんなことはないと思う。

(松井委員)

- ・ 私はどちらかという大橋さんの言っていることに結構納得いく。皆さんが考えている工法の効果を何らかの方法で確かめられるということがあれば、それはもうぜひやってみたいと思う。

(清野委員)

- ・ 小規模の実験というのをやってみたらどうかと思う。法律的に整理しなければいけないところもあるが、例えば干潟で結構市民の方が携わって、生き物がふえたりとか、そういうことを小規模な実験でやっている。町と県の方と御相談して、方法としてはブロックを並べるとかそういうものではないかもしれないのですけれども、それをやることは結構意味があると思う。住民の方々に提案書を書いていただいて、一緒に写真を撮ってもらうとか、観察したものを送ってもらうということをお願いできればと思う。

(宇多副会長)

- ・ テストしてみようというのはわかるのですが、何かやるときに少し規模が大きくなると非常にお金がかかる。それはすべて公的資金ですから、何のためにどういう成果が上がるかというのを手厳しく言われる。何だかよくわからないのだけれども、やってみようというのは非常に難しい。私のお勧めは、極力今あるものを利用して、そんな大々的に何か大観測計画を立てるとか、そういうことは言わないで、今、簡単に調べる方法があるわけで、大してお金もかからない。そういう方法で対応したらどうか。

(清野委員)

- ・ 宇多副会長の言ったように、観測データを取ったほうが良い。住民参加型エココースト事業というのもあるので、活用したらよいだろう。

(近藤会長)

- ・ 今回の会議では、6号ヘッドランドについて意見をもらう事が主旨なので、ロープの話題については重要な課題であるが、今後も継続的に議論を重ねていく事にして、今回の議題からは外させて頂くことにご了解いただきました

い。

(芝本委員)

- ・ 秋山委員は、その専門的な観点からヘッドランド中央部に砂がつくことが大事であると指摘しているが、今回の検討結果では、どの形状案もヘッドランド中央部の対策については説明がなかったので説明して欲しい。

(事務局)

- ・ 6-7 ヘッドランド間に養浜した場合の計算結果を説明。

(近藤会長)

- ・ これはそのままほっておけばこの海岸は侵食される。だから、侵食を少なくするために、離岸堤とかいろいろな案が出てきてヘッドランド案に落ち着いた。しかし、真ん中はいずれにしろ削られる。だったら、それに対して人間が手を加えて海岸を変形させているのだから、やはり手を加えてあげる必要がある。それには養浜ということで、今どこかにたまっている砂を元に戻してあげましょうという考えが県土整備部の基本的な考え方だと思う。

(芝本委員)

- ・ 養浜は継続して進めていくということだが、九十九里浜全体を考えるのであれば、元々の太東崎や屏風ヶ浦からの供給土砂が減少したことが根本的な問題なので、これについても見直す必要があると考えている。養浜は応急処置のように感じる。

(近藤会長)

- ・ もっとも良い侵食対策は今のところ、ヘッドランド事業である。今のうちに、出来るだけのことはやっておいたほうが良い。もちろん景観的な部分もあるが、しっかりとした侵食対策をしなければ九十九里浜自体が無くなってしまいかもしれない。
- ・ 今ある技術で最もいい方法は何だろうかというところとヘッドランドで、日本全国で大体合意を得ているわけです。今のうちにできるだけ手を打たないと、もう「九十九里」という名前もなくなってしまうような海岸になってしまうというところで、出来るだけのことをやっていきたいと思いますというのが県の考えだと思う。おっしゃるように、海岸景観を考えたらそんなものは要らない方がいい。私もそう思う。ところが、本当にそれでいいのかと言ったら、そうしたら九十九里そのものがなくなってしまうということである。

(芝本委員)

- ・ 今回ご説明していただいた中で、どのような事まで議論するのでしょうか。

(近藤会長)

- ・ 今回は、事務局から説明があった4案の中から形状を決めて、工事を進め

ても良いのか、さらには養浜を続けても良いかについて合意を得たい。

(清野委員)

- ・ 九十九里浜の土砂管理計画を10年程前から進めてきたが、その点を県より説明頂いて方が、この事業も理解されやすいのではないか。県のビジョンが無いままでは議論しづらいだろう。

(事務局)

- ・ 南九十九里浜養浜計画について説明。

(宇多副会長)

- ・ ヘッドランドを作ることが目的なのではなく、秋山先生が指摘するように砂浜を回復させることが侵食対策の根本である。養浜をすれば確実に砂浜が回復するのだから、今回のようなヘッドランドの構造物をどうするかという議論よりも、養浜事業の話に展開していきたい。

(近藤委員)

- ・ 賛成である。

(田邊委員)

- ・ 海岸区にはヘッドランドが3本あるが、確かに養浜した箇所では砂浜が増えている。6号についても現行計画案で進めてもらい、さらに養浜もして砂浜を回復させて欲しい。

(近藤委員)

- ・ すみやかに計画通り進めて欲しい。

(近藤会長)

- ・ こうやってお話をしてそれぞれの立場の希望や夢がいろいろとある。県にお願いしたいが、しばらくこういう会議を続けていただきたい。今回は6号ヘッドランドのデザインについて、事務局からも御説明があつて、最も効率がいいのはやはり従来の90m幅のヘッドランドですよということが大体証明ができているのかなと思う。案の中で最も優れたものは現行案であるということで御了解していただいてよいか。

(賛成の声あり)

(宇多先生)

- ・ 現行計画を採用して、すぐ工事してできるのか？

(事務局)

- ・ 工事に取り掛かるのが2~3ヶ月先、1年後ぐらいには形が見えてくると思う。

(近藤委員)

- ・ 養浜を船舶でということなのですからけれども、それだとどのような砂が入っているか分からないので陸上運搬のほうも必要だと思う。

(大橋委員)

- ・ 私の提案した方法をシミュレーションしてもらいたい。

(宇多副会長)

- ・ うまくいくかどうか分からないがシミュレーションしてみたらどうか。

(事務局)

- ・ 検討したい。

(近藤会長)

- ・ 先ほど、6号ヘッドランドの形状は現行計画案でやることに御理解を頂いたと思うがそのようなことでよろしいでしょうか。また、養浜についても進めるということでもよろしいでしょうか。

(賛成の声あり)

## 1. その他

- ・ 次回の会議では、事業の実施状況、4号ヘッドランドについて説明する。開催日は来年度になる予定。

(玉川町長)

- ・ 現在、県で海岸管理を行っているが、来年度から町が海岸の管理を行っていくことで県と協議を行っている。

## 2. 閉会